

令和4年度第4回岡崎市民病院地域医療支援委員会 会議録	
開催日時	令和5年1月26日(木) 午後2時から午後2時40分
開催場所	岡崎市民病院 西棟第4会議室
委員	(出席者)10名 市川博文、鈴木正博、片岡博喜、金澤一徳、築山高彦、永田昌子、石川紀世美、小林靖、伊奈秀樹、山田健志 (Web参加)3名 田那村収、升川浩子、高村俊史
事務局	地域医療連携室管理監 青木 崇、室長補佐 蟹江尚美、副主幹 岸こずえ、
会議次第	1 院長挨拶 2 議題 1 令和4年度地域医療支援病院業務実績(4月~11月)について 2 新しく定めた岡崎市民病院行動規範及ロゴマークについて 3 その他
傍聴者	0人
議事要旨	1院長挨拶 (内容省略) 2議事 (議長) 議題1「令和4年度地域医療支援病院業務実績(4月~11月)について」の説明を事務局に求める。 (事務局) 令和4年4月から11月の地域医療支援病院業務実績について報告する。紹介率・逆紹介率の平均は、それぞれ75.02%、96.08%で令和3年度より減少しているが、地域医療支援病院承認要件である紹介率65%以上・逆紹介率40%以上を満たしている。 令和4年度上半期紹介件数、3医療圏地域別に見える化マップで、藤田医科大学岡崎医療センターの開院前と前年度との比較をした。藤田医科大学岡崎医療センター開院前2019年度と比較し、減少の著しい地域は①藤田医科大学岡崎医療センター5km圏内エリアが43%、②市外南部エリアが45%、③市内5km圏外西部エリアが59%、④幸田町エリアが70%であった。前年比は、①②③エリアはそれぞれ87%、84%、94%と下げ止まっていない。④は100%を割っており市内全体の前年比98%で160件の減少であった。これに対して市外からの紹介率は107%、29件の増加が見られ併せて131件の対象医療機関から紹介件数の減少となった。 市内からの紹介件数を結果から見ると、藤田医科大学岡崎医療センターから遠い地域は紹介が増加しているが、当院周辺も含め、比較的藤田医科大学岡崎医療センターに近い地域からの紹介数は減少傾向にある。今後も市民、地域の紹介医療機関との信頼関係構築の必要性を感じる結果になった。 病床および医療機関の共同実績、救急医療の提供実績は昨年とほぼ同様の結果となっている。 地域医療支援病院の研修について、資料記載の研修に加えて地域医療連携室が主催で岡崎市民病院地域医療支援病院講演会として、今年度は11月12月1月と3回を実施した。 諸記録の閲覧実績、月別相談延べ件数、退院調整をした患者数、地域連携クリニカルパスの新規登録件数に関しても、昨年とほぼ同様の割合となっている。 (委員A) 資料2.7について、月平均が間違っている。 (事務局) 修正する。 (委員B) 数字の羅列だけでは状況がイメージできない。岡崎市民病院としてどのように理解して評価しているのか。病院としての考えがあれば聞きたい。 (議長) 全体的に見ると、資料2の共同利用実績について、解放病床の利用が0の時もあるが、利用の有無ではなく、いつでも利用できる状況にしておくことが重要だと考えて

いる。資料3の救急医療について、以前より減少しているが、妥当な件数になってきており、適切な医療を提供できていると考える。

(委員B)

病院としての考えを聞くことができた。

(議長)

議題2「新しく定めた岡崎市民病院行動規範及ロゴマークについて」議長である小林院長より説明。

(小林院長)

当院の歴史を説明。令和4年4月より院長に就任した。行動指標を明確にし、ロゴマークを作成した。このロゴマークは、岡崎市出身のデザイナーに依頼した。今までの当院の理念は抽象的な文章で理解しづらかったが、わかりやすくなり、職員が動きやすいものとなった。

(委員C)

出来た物より出来る過程が大切であると考え。ロゴマークが出来上がっていく過程で、どのような議論があったのか。

(小林院長)

プロジェクトチームを立ち上げ、メンバーそれぞれが意見を出し合い何度もディスカッションし決定した。その結果を職員に対して、全体会を設け院長が伝えた。次年度の新人職員に対しても説明をする。

(事務局)

当委員会の委員の任期満了に伴う手続きについて説明。令和5年3月31日をもって2年間の任期で満期を迎える。令和5年4月1日から2年間当委員の推薦を各団体に依頼する。

今後の地域医療支援委員会の開催方法について、今回同様ハイブリッド方式で行う。

(議長)

他に意見及び質問がないことを確認する。

本日の提出議案は全てご承諾いただいた旨を報告し、会議の終了を宣する。

次回は令和5年4月27日木曜日14時からを予定している。

(以上)